

自己紹介

私は広島市立大学国際学部 3 年の伊達椋平（だてりょうへい）と申します。大学では文化人類学に興味を持ち勉強をしています。生まれも育ちも広島で、地元への愛着は強めです。しかし、逆にみればまだ大海を知らない未熟者ということです。今回、広島県推薦枠として本研修計画に研修生として派遣していただいたことに大変感謝をしております。メキシコで文字通り大海の一部を学ぶとともに、貴重な経験を将来に活かせるように日々努力いたします。そして、海外初心者目線ではありますが、このレポートを通してみなさんにメキシコの魅力と私の体験をより多く伝えることができれば幸いです。

メキシコに到着して初めての生活

メキシコに到着してはや二ヶ月が経とうとしています。これから私がメキシコに到着してから今までで感じたことを書こうと思います。

まずは、メキシコシティの気候から。メキシコシティの標高は 2250 メートルで季節による気温の影響が少ないということは事前に学んでいました。9 月、私は毎朝 7 時に起きて学校に行くのですが、はじめは寒さで目を覚ましていました。正確な気温はわかりませんが、朝晩の冷え込みは想像以上で、逆に日中の暖かさは T シャツ 1 枚で十分くらいです。標高についてあまり実感はしなかったですが、確かに階段を登るときに疲れやすい感じはしました。



学校へはメトロブスという交通機関を使っています。料金は一律 6 ペソ（約 36 円）で、シティの端から端まで整備されています。本数はかなり多く、どこへ行くにも便利な乗り物です。しかし、通勤時間帯の午前 8 時、午後 5 時あたりはかなり混んでいます。前方 1 両は女性などの優先車両となっており、たまに羨ましいなあと思うこともあります。このほかにも、主な交通機関として地下鉄（一律 5 ペソ、30 円ほど）も整備されています。メトロブスより整備されている範囲が広く、早い地下鉄ですが、私は比較的安全で景色も楽しめるメトロブスを好んで使っています。街中ではカミオンと呼ばれる小型バス、さらに小型のコンビと呼ばれるバスもあるため、交通機関の充実を感じています。

街を歩いていると環境の汚染は感じざるを得ません。曇りがかった空気と道路

に散らばる大量のゴミを見ると少し残念に思います。ゴミを捨てようとゴミ箱を探していたのですが、歩いて見当たらないという経験をしました。メキシコにおいて環境汚染と水不足は深刻な問題で、私の大家さんのように真剣に考えようとする人もいればそうでない人もたくさんいるみたいです。しかし、発展と汚染が進む一方かといえばそうでもありません。街中には所々にコロナアルな建物が見られ、メキシコの伝統的な家屋がいまなお使われていたりします。



平日は学校に通い、週末になると友達と出かけることが多いです。パーティーは音楽をかけながら歌って踊って、想像以上にエネルギーで楽しいメキシコの雰囲気



を楽しむことができます。特に独立記念日のイベントではメキシコ中の人々が歓喜に沸きました。私の家は町を中心から少し離れているため、現地の家族の方にしばしばお世話になることがあるのですが、そこで感じるのがメキシコのおもてなしのスタイルです。日本のおもてなしのスタイルで想像するのが、来客を丁寧に扱い気を配るというものです。しかし、それはあくまで来客として迎え入れるにすぎません。しかし、私がメキシコにきて体験したおもてなしとは、来客をまるで家族のように迎え入れ、十分すぎるくらいの食事をご馳走になり、しまいには交通費までもらってしまうところでした。終始申し訳ない気持ちにもなったのですが、相手との距離を感じさせないおもてなしのスタイルは心地いいものだなと私は感じました。



ここまで私の個人的な感想を多く含む文章でしたが、私が感じたことを通して少しでもメキシコを身近に感じていただけたら嬉しいです。これからもよろしくお願いたします。